



Web ページへのナビゲーションは取り消されました

対処方法:

- ページを最新の情報に更新する。



[2006年 7月 13日]

社会

事件

話題

教育

人事

訃報

天気

学芸

皇室

スポーツ

エンターテインメント

暮らし

サイエンス

政治

経済・IT

国際

地域ニュース

English

記事検索

検索

フォトジャーナル

一覧



ファッションショー:セクシー水着など披露 ブラジル

動画ニュース

一覧



TBSnews-i
トンネルじん肺訴訟、熊本でも原告勝訴

[速報](#) | [今日の話題](#) | [特集](#) | [毎日の視点](#) | [コラム](#) | [フォトジャーナル](#) | [動画](#) | [ランキング](#) | [ニュースな言葉](#)

[ニューストップ](#) > [社会](#) > [教育](#) > [ネット社会と子供たち](#) > [情報モラルを考える](#) > [バックナンバー](#) > [記事全文](#)



Web ページへのナビゲーションは取り消されました

バックナンバー

一覧

ヘルプ機能では分らない対処法を教えよう 加納寛子・山形大助教授



「モバイルメディアに注目している」と話す山形大学の加納寛子助教授

コンピューターやインターネットが、子供たちの心身の発達にどのような影響を与えるのは、明らかではない。大人はネット上で子供たちがどんな遊びをしているかに無頓着だという指摘もある。学校で情報モラル教育をすべきだと話す山形大学の加納寛子助教授は、著書の「実践情報モラル教育 コピキタス社会へのアプローチ」などで情報モラル教育の重要性を訴える一方、学習機器としてのモバイルメディアに注目し、携帯電話のQRコードを使った学びを提案している。【岡礼子】

- - 著書で「学校で情報モラル教育をすべきだ」と訴えていますね。

ホームページづくりとか、掲示板の設置などは、やりたいと思えば、大人が教えなくても子供は自分でできるようになります。でも、その背後にある危険に気付かせるのは、教育の役割だと思います。技術的なことは、ヘルプ機能などを使って、自分で学ぶことができますが、ヘルプボタンを押しても答えが出てこない問題こそ、教育をすべきでしょう。

- - そんなに危ないのなら、使わせなければいいという声もあるようです。

「子供は外で真っ黒になって遊んでいれば、ちゃんと育つ。わざわざIT機器を教えて危険にさらすことはない」と考える先生は多いです。でも、学校で教えなくても、家庭でどんどん使っています。危険について学ぶ機会だけを逸してしまっているの、何とかしなければいけないと感じています。タッチタイピングや、HTMLタグを教える先生はいるのに、子供の心の発達や身体に与える影響については、あまり考えられてこなかったことに疑問を感じています。

- - 身体に与える影響には、どんなものがありますか？

視力の低下や、電磁波の影響といった身体的な影響はよく言われていますが、心への影響も見逃すわけにはいきません。子供の発達段階とも関係しますが、ホームページづくりに熱中して、自分の作品に対する思い入れが激しくなると、友達にちょっと批判されただけで、その友達に敵意を抱くことがあります。長崎県佐世保市の小6 女児殺害事件で、加害女児は被害女児にホームページづくりを教えていました。加害女児は、教えてあげているんだから、被害女児のホームページを勝手に書き換えても問題はないと思っていたのではないのでしょうか。でも、被害女児にしてみれば、教えてはもらったけど、自分でつくったページだから、勝手に書き換えられたら腹が立つ。そのあたりに、気持ちの行き違いがあったのだと思



ます。

- - そうならないためには、どうしたらいいのでしょうか。

対処方法:



体験を通して学ぶことで、相手の気持ちが分かるようになると思います。小学生が自分1人でホームページを作ってしまう前に、親や教師、大人と一緒にコミュニケーションをしながら作っていくと、ほかの人がどんな気持ちでつくっているかが分かるようになって、自分の気持ちを客観的に見るできるようになります。ほかの人も、自分と同じような気持ちでつくっていることが見えてくると思います。

- - インターネットなどの新しいメディアは、親より子供の方がよく知っていて、親子の認識にずれがあるとされます。

子供の方がよく知っていると、親に注意されても、「自分の方がよく知っているんだから、お母さんの言うことは違う」と思ってしまう。電話でもメールでも、使っているメディアにかかわらず、子供に教えなければならぬ基本的なことがあります。それを言っても、子供は「お母さんは知らないくせに」と聞かないことがある。一方で、コンピューターやインターネットがよく分からない親が、子供は遊んでいるだけだと思っただけで放置していることもある。実はチャットで友だちとけんかをして、深刻な状況になっているということもあるのに気付かない。

- - 経験したことがないと、チャットでけんかをするというのはどういう状況なのか、想像がつかないのでしょうか。

親は、子供はけんかをしてすぐ仲直りすると思っているようですが、最近の子供たちの関係は、1度壊れると修復が難しいことがあるのです。それはコンピューターやインターネットだけではありません。大分県で起きた事件では、2人の子供が公園でお互いの遊び道具を交換して遊んでいて、片方が返して欲しいと思ったときに、もう1人が返さなかったために、刃物で刺してしまいました。このくらいのことで刃物を持ち出してしまうのです。

- - なぜでしょうか？

人付き合い、コミュニケーションの文脈、ストラテジーを学ぶ機会を失っているのではないかと思います。それは、昔のように戸外で遊ぶだけで解決できるわけではなく、現代の文化にあった方法でコミュニケーションのとりかたを学ぶ必要があります。今の若者世代の文化を“ケータイ文化”と呼んでいますが、“ケータイ文化”にあった方法で、携帯端末やパソコンなどを通して、コミュニケーションの文脈や、ストラテジーを学ぶための教育が必要ではないかと思います。

- - 大学では、携帯電話やPDAを使った授業も開発しているとか？

PDAや携帯電話は、小さくて高機能なので、学習機器として活用したいと考えています。子供たちも、新しいツールには興味を持つので、動機付けもしやすいのです。QRコードを使った学習コンテンツを開発し、7月に東京の小学校で授業をしました。学生にも、1人1つずつ教材を作らせています。

- - QRコードは、どのように使うのですか？

まず「今だけビックチャンス！ 時計をプレゼント」などの、個人情報の書き込みを促すような擬似サイトを使って、子供たちに書き込むか無視するか答えさせます。この擬似サイトを学生に作らせていますが、そこにQRコードを載せて、「書き込む」と答えた人に携帯電話からアクセスしてもらいます。アクセスすると、「数日後」という表示が出て、「高額な料金請求が届く」「怪しい団体への勧誘が届く」といった実際に起きる事態を携帯画面で見ることができるようになっています。

- - 著書で「子供がホームページに日記や詩を書くことは、気付いて欲しいというメッセージだ」と書いています。子供はみんなに見てほしいという気持ちが強いのでしょうか。

詩などを書くときは、ただ書き残したいというより、読んだ人に共感してほしいのだと思いますが、子供たちはみんなが自分と同じ気持ちで読んでくれるものと信じているところがあります。ホームページは多くの人が見るので、いろいろな読み方がある、共感しない人、いたずらメールを送ってくる人がいるかもしれません。でも、子供たちはそうは考えない。広く社会の人たちに見られているという認識はなくて、身近な人に見てほしいという気持ちなのだと思えます。

- - 親が気づかなければいけない？

佐世保の事件の加害女兒は、ホームページに自分のアバター(キャラクター)を載せていましたが、バスケットボールをやめる前はきらきらしたイメージのかわいい女の子だったのに、バスケットをやめた後は、かぼちゃの顔をした暗いイメージに変えていました。バスケットをやめて暗い気持ちになっているというのを、一生懸命伝えようとしていたのだと思いますが、周囲は誰も気づかなかった。

- - ブログを書く人が増えていますが、子供だけでなく、大人も、自分のブログを読んでいるのは身近な人で、社会のだれでも読めるものという感覚が希薄なのではないかと感じます。

もし、本当の日記を書いているとしたら、「おれおれ詐欺」などの犯罪者に情報を与えてしまう危険がありますね。今年の授業で、学生に電子メールのフリーアドレスを作らせたのですが、そのときは「本当のことを書かない」と教えて、偽情報を入れる練習をしました。そうしないと、本当の住所や電話を書き込んでしまうのです。「偽情報を入れておけば、データを盗まれても個人情報ももれることはない。職業欄には『学生』とは書かず、『その他』と書くといいよ」と話しました。

- - フリーアドレスを取得する授業を行っているのですか？

今年、取り入れてみました。学生に「本当のプロフィールを入れようと思ったか」と聞いたら、全員が手を挙げました。コンピューターを使えない学生が2割くらいいますが、文字を打ち込むのに一生懸命になっていて、私が話しているそばから、本当の情報を入れてしまうということもありました。パスワードなんて簡単に盗めるし、そこに本当のことを書く必要はないでしょう。こういうことは教えないと分かりません。事件に巻き込まれてから「あのとき個人情報を書いたからだ」と気が付くことになります。フリーアドレスを取得する授業は必要だと思いました。

- - どう教えればいいのでしょうか。

「本当の個人情報を書かない」といったことは、本で読んだり、テレビなどで聞いても、なかなか身につかないと思います。自分のことではなく、他人事として聞いているのではないのでしょうか。授業でやったように、実際に偽情報でフリーアドレスを取得してみたり、身近な人に聞いたりすれば、同じような場面に合ったときに思い出すと思います。

2005年8月5日



加納助教授の著書「実践情報モラル教育 ユビキタス社会へのアプローチ」



Web ページへのナ

対処方法:

- [ページを最新のナ](#)

Copyright 2005-2006 THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.
MSN毎日インタラクティブに掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
[著作権](#) | [プライバシー](#) | [よくある質問](#) | [毎日新聞から](#) | [ご意見](#) | [読者投稿](#) | [RSSについて](#)

このページ上に表示されるニュースの見出しおよび記事内容、あるいはリンク先の記事内容は MSN およびマイクロソフトの見解を反映するものではありません。

(C) 2006 Microsoft [使用条件](#) [プライバシー](#) [迷惑メール対策](#)

[お問い合わせ](#)・[ご意見](#) [ヘルプ](#)